

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (58) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(58)—

1. 始めに

前報(57)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ協奏曲です。

PHILIPS FL-5582

モーツアルト 2 台のピアノのための協奏曲変ホ長調

3 台のピアノのための協奏曲へ長調

デュオ・シュナーベル (ピアノ)

アルトゥール・シュナーベル

ヘレン・シュナーベル

イルゼ・フォン・アルペンハイム (ピアノ)

ベルンハルト・パウムガルトナー指揮ウイーンフィル

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

PHILIPS 盤ということで、RIAA、正相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

2 台のピアノのための協奏曲は、アルトゥール・シュナーベルとヘレン・シュナーベルのデュオ、3 台のピアノのための協奏曲はこの二人にイルゼ・フォン・アルペンハイムが加わります。

ベートーヴェンでは定評のあるシュナーベルのモーツアルトということで、興味をもって聴き始めました。

シュナーベルはベートーヴェンのソナタの SP を聴いたことがありますが、その時の印象と同様、端正で音楽の内面を捉えた演奏で、今回は、モノラル盤でレンジも広くはありませんが、デュオとトリオとも演奏の確かさが伝わってきます。パウムガルトナー指揮ウイーンフィルも、モノラル盤ながらウイーンフィルらしい演奏です。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、モノラル盤ながらアルトゥール・シュナーベルを中心としたデュオとトリオの 2 台のピアノのための協奏曲 3 台のピアノのための協奏曲の演奏の内容が把握できました。

以上